

令和2年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

評価日時：令和3年6月1日

会議名称：玉川学園教育活動等点検調査委員会大学分科会教務部会

開催場所：玉川大学 大学教育棟2014 793会議室

目 的：令和2年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」
の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の観点	評価・意見
学内からの観点	
〔観点1〕プログラムの履修・修得状況	令和2年度の履修者数は27名（履修率0.4％）であり、令和3年度以降の履修者数目標値と大きく差がある。しかしながら、履修者の所属学部は工学部、経営学部、芸術学部、リベラルアーツ学部の4学部（全学部数の1/2）にわたっており、全学に向けて開講されていることのみならず、文理を問わず、多専門分野の学生が履修していることが確認できた。今後は、「一年次セミナー101,102」での本プログラムの啓蒙他の取り組みを講じ、各年度の目標とする履修者数確保に努める。
〔観点2〕学修成果	本学の成績評価は「知識・理解」だけでなく、「汎用的技能」「態度・志向性」の達成度評価も含めた評価となっている。このことから、各科目の成績評価が各履修者の学修成果とみることができる。学生ポートフォリオの記載からも学修成果を補完することができるが、ポートフォリオの活用率は低く、今後はポートフォリオの活用率を高める取り組みも必要であるとする。さらに、本プログラムに特化した学修成果の可視化のため、プログラム履修者を対象としたアンケートも実施したい。
〔観点3〕学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートの「学生の内容の理解度」「シラバスに記載されている達成目標の達成度」から確認できる。本プログラム科目の令和2年度における授業評価アンケートの結果では、多くの科目がユニバーシティ・スタンダード科目の数値化した評価の平均値を上回っており、一定の理解度に達していることが確認できた。しかしながら、一部で平均値に達していない科目もあり、シラバスの見直し、授業方法の改善などを図っていく。さらに、本プログラム履修者を対象としたアンケートも実施したい。
〔観点4〕学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	現行の授業評価アンケートでは他者への推奨度に関する設問がなく、確認できていない。本プログラム履修者を対象としたアンケートを実施する際に、他者への推奨度に関する設問を含めることとする。
〔観点5〕全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「一年次セミナー101,102」での本プログラムの啓蒙を始め、下記の取り組みを講じ、各年度の目標とする履修者数確保に努める。 ・新科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」 令和4年度開設 ・新入生ガイダンスでの本プログラム周知 ・学術研究所先端知能・ロボット研究センター主催講習会等をととした学生サポート ・オープンキャンパス等での入学前からの説明会の開催 ・本プログラム担当教員のオフィスアワーの実施 ・授業外学修支援（ラーニング・コモンズにおける学修支援を含む） ・Bbによる24時間の学びの確保 ・本プログラム専用WEBサイト等による学内外周知・情報提供

令和2年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

自己点検・評価の観点	評価・意見
学外からの観点	
〔観点6〕教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	現段階では本プログラム修了者（卒業生）がいないため、確認できない。 ただし、本プログラム履修者が卒業する時期までに本プログラム履修者の就職先企業を対象としたアンケートを計画している。
〔観点7〕産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現段階では本プログラム修了者（卒業生）がいないため、就職先企業からの評価は確認できない。一方、本プログラム履修者のインターンシップ受け入れ先企業については教員が受け入れ企業を訪問した際に意見を伺っているが、件数が少なく、評価の資料とすることは難しい。今後は、教員が受け入れ先企業を訪問する際に確認する事項等を統一し、担当教員が企業の意見を取りまとめる。また、インターンシップ受け入れ先企業を対象としたアンケートを計画している。
〔観点8〕数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業評価アンケートの「授業への意欲的な取り組み」「授業内容への興味」から確認できる。本プログラム科目の令和2年度における授業評価アンケートの結果では、多くの科目がユニバーシティ・スタンダード科目の数値化した評価の平均値を上回っており、一定の理解度に達していることが確認できた。しかしながら、一部で平均値に達していない科目もあり、シラバスの見直し、授業方法の改善など、履修者が「学ぶ楽しさ」、「学ぶことの意義」を理解する取り組みを図っていく。さらに、本プログラム履修者を対象としたアンケートも実施したい。 また、学生ポートフォリオの自由記述ではAIへの期待や興味についての記述もあり、学ぶ楽しさが伝わっていることが伺われる。
〔観点9〕内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートの「教員の授業の進め方」から確認できる。本プログラム科目の令和2年度における授業評価アンケートの結果では、多くの科目がユニバーシティ・スタンダード科目の数値化した評価の平均値を上回っており、一定の理解度に達していることが確認できた。しかしながら、一部で平均値に達していない科目もあり、資料の提示方法や学生からの質問の対応を含めた双方向のコミュニケーションなど、わかりやすい授業に向けた取り組みを図っていく。さらに、本プログラム履修者を対象としたアンケートも実施したい。